

いじめの早期対応に関する校内研修

1 研修のねらい

いじめの問題について、組織的で丁寧な初期対応に心掛けようとする態度を養う。

2 事前準備

(1) 配付資料及びワークシートを印刷する。

(2) グループを作り、参加者に伝える。(グループ編成は、年齢や経験年数等を考慮する。)

3 活動の流れ

段階	活動内容	留意点	時間
導入	○本時の研修の流れを確認する。	・資料を配付し、研修の流れについて説明する。	4分
展開	○B男が抱える問題を予想する。 ・資料1を配付し、B男の様子から、今後B男の周りで、どのようなことが起こる可能性があるのかを考え、ワークシートに記入する。 ・グループ内で考えを発表し合い、共有する。	・資料1、ワークシートを配付する。 ・子どもの変化に対する教師の感性を磨く。	6分
	○担任として、この後どのように対応したらよいか考える。 ・誰に相談するか、どのような体制で対応していくのか考える。	・個人で対応せず、組織的に対応していくことを確認する。	5分
	○B男が抱える問題に対して、学校はどのようなことに配慮して対応すべきかを考える。 ・資料2を配付し、B男に起こった問題を把握する。 ・この後、学校は、「いつ」、「誰が」、「どのようなことに配慮して対応すべきか」を考えて、ワークシートに記入する。 【B男に対して】 【C男、D男に対して】 【他の児童に対して】 【B男の保護者に対して】 【C男、D男の保護者に対して】 【関係機関との連携】 ・グループ内で考えをまとめる。 ・グループごとに対応策を発表する。	・それぞれの視点について具体的な対応策を考える。 ・短期的な視点と中長期的な視点で考えるようにする。	30分
終末	○スクールカウンセラーが、この事例で配慮すべきポイントを助言する。	・スクールカウンセラーは、 別紙 を参考に助言する。	10分
	○活動の振り返りをする。 ・研修で学んだことを、今後どのように指導に生かそうと思うかを考える。	・必要に応じて、学校いじめ防止基本方針やいじめ対応マニュアルを確認する。	5分

資料 1

あすなろ小学校 6 年 2 組の担任 A は、ある日の帰りの会終了後、なかなか家に帰ろうとしない B 男を見つけた。B 男は、明るい性格で、いつも面白いことを言っては友達を笑わせていたので、クラスでも人気者であった。担任 A は、「もうそろそろ帰る時間だけど、どうかしたの？」と尋ねると、B 男は「大丈夫です。」と一言答えて、教室を出て行った。

放課後、担任 A は、B 男の様子が気になったため、母親に家での様子を聞くことにした。母親によると、特に変わったことはなく、今日は友達と遊びに行かず、部屋で勉強をしているとのことであった。

翌日、B 男はいつものように明るく学校生活を送っていたが、前日と同様に帰りの会が終わっても、なかなか帰ろうとしなかった。担任 A は、「友達と何かあったの？」と尋ねると、B 男は急に暗い表情になり、何も言おうとしなかった。

資料 2

【担任 A が B 男から聞き出した話】

二週間前のある日、同じクラスの C 男と D 男から、コンビニに行こうと誘われた。小遣いも残り少なくなっていたため、あまり乗り気ではなかったが、一緒に行くことにした。B 男は、コンビニで何も買わず、2 人よりも先に店を出て、外で待っていた。しばらくすると、C 男と D 男が店の外に出てきた。C 男は、「このカード、俺たちもう持っているから、お前にあげるよ。」と、カードゲームをもらった。

1 週間前、D 男の家で遊んでいるとき、C 男はまた、カードをくれた。B 男は、「なんでこんなにカードをくれるの？」と尋ねると、D 男は、「俺たち、あそこのコンビニから、いつでも、ただでもらえるからな。」と得意げに答えた。B 男は、もらったカードが万引きしたものであることがわかったため、2 人に返そうとしたが、C 男は、「お前も共犯なんだから、絶対に親や先生に言うなよ！」と言われた。

その日から、B 男は、C 男と D 男に会うたびに、「お前、ちくったら絶対に許さないからな！」と脅されるようになった。

ワークシート

氏名 ()

- ◆ B男はどのような問題を抱えているかを予想する。

- ◆ 担任として、この後どのように対応していくか考える。

- ◆ 学校は、どのようなことに配慮して対応すべきか考える。

【B男に対して】
【C男、D男に対して】
【他の児童に対して】
【B男の保護者に対して】
【C男、D男の保護者に対して】
【関係機関との連携】

- ◆ 今後の指導に生かそうと思うこと

別紙 スクールカウンセラーが助言する内容（例）

【B男に対して】

- ・「よく話してくれたね」「一人で大変だったね」という共感する思いを伝える。
- ・「あなたの意に反するようなことは勝手にしない」ことを伝え、安心と安全の保証をする。
- ・B男から自責の念が出てきたとしても、本人の落ち度があるような話につなげない。
- ・どのようにしてほしいか本人の考えを聞く。

【C男、D男に対して】

- ・関係職員から情報を集め、二人から話を聞くことができる状況を整える。
- ・話を聞くときには、複数の職員で同時に聞く。
- ・先入観を持たずにC男とD男の話を聞く。
- ・行動に対して指導し、二人の成長を願っているという思いを伝える。

【他の児童に対して】

- ・いじめアンケートを実施し、他にも同じような思いをしている人がいないか探る。
- ・学校便りや学級活動の時間を活用し、人権意識を高めていくような話をする。
- ・学校はいじめに対して全力で取り組んでいるという姿勢を示す。

【B男の保護者に対して】

- ・気付くのが遅く、B男に大変な思いをさせてしまったことを謝る。
- ・B男から話を聞いたことを伝える。（加害者の名前は事実がはっきりする前は安易に伝えない）
- ・今後のおおよその指導計画を示し、情報をこまめに伝えていくことを伝える。
- ・B男は勇気を持って話をしてくれたことを伝える。

【C男、D男の保護者に対して】

- ・C男とD男も問題を抱えているかもしれないことをふまえ、単純に加害者扱いするような話し方をしない。
- ・正直に話したことを価値付ける。
- ・最近のがんばりを認め、二人の成長を願っているという思いを伝える。